

機関番号：32816

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20240071

研究課題名（和文） 幼児・児童における未来型能力育成システムならびに
指導者教育システムの開発研究課題名（英文） Development of Future Directed Children's Competences
Enhance system and their Leader Education System

研究代表者

坂元 昂（TAKASHI SAKAMOTO）

東京未来大学・こども心理学部・学長

研究者番号：00016338

研究成果の概要（和文）：

本研究では、21世紀に生き、開拓する21世紀型能力を中核に、幼児・児童における未来型能力、幼児・児童における未来型能力の育成、未来型能力を指導できる指導者の育成の3段階にわたる研究を、既存研究の検討整理、独自の調査、研究を踏まえて、社会貢献する成果としてまとめた。初年度から2年度にかけて21世紀型の幼児像を様々な能力領域で明らかにし、2年度から3年度にかけて、各領域で、これらの能力を育成するシステムを設計試行評価し、さらに、能力育成を指導する指導者の教育システムを検討、整理、設計、試行実施した。

研究成果の概要（英文）：

Concerning the 21st Century Competences cultivated in Children, R & D for the following 3 steps were undertaken and achieved:

- (1) Analysis of the Future Directed Competences
 - (2) Enhancement of the Future Directed Competences
- and

(3) Enhancement of Leaders for Cultivating the Future Directed Competences, based upon the Survey and Analysis of the Previous Research works and the Creative Proper R & D. Step 1 had been conducted in 2008 and 2009, Step 2 were conducted in 2009 and 2010 and also Step 3 have been undertaken in terms of the Study, Analysis, Design, and Pilot Practices.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	15,000,000	4,500,000	19,500,000
2009年度	13,400,000	4,020,000	17,420,000
2010年度	9,900,000	2,970,000	12,870,000
年度			
年度			
総計	38,300,000	11,490,000	49,790,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学・教育工学

キーワード：国際情報交換・幼児教育・初等教育・保育士養成・教員養成・マルチメディア・ICT・学士課程教育

1. 研究開始当初の背景

21世紀の急変しつつある現代社会に対応し、それを担う人間の教育、育成が重要な課題となっている。

その教育について先進諸国を中心に多くの提案がなされているが、それらは同じ人間の発達の各年齢段階や限られた対象の範囲に限定される傾向があり、乳幼児から児童、

生徒、学生、社会人という能力・資質の一貫した全面的発達という観点からの整理や研究調査実践はほとんどなされてこなかった。

個人の能力資質領域についての関心、研究は、たとえば各教科教育、安全教育、食教育などの多くの分野において成果をあげてはいるものの、とくに人間の全面的発達とその促進法については、不十分といわざるをえない。

2. 研究の目的

上述の背景を踏まえ、本研究では、幼児・児童における未来型能力、幼児・児童における未来型能力の育成、未来型能力を指導できる指導者の育成の3段階にわたる研究を、既存研究の検討整理、独自の調査、研究、を踏まえて、社会貢献する成果としてまとめることを目的とした。

3. 研究の方法

この研究は、発達心理学、認知心理学、社会心理学、人格心理学、臨床心理学、犯罪心理学、等の心理学分野の専門研究者、保育学、幼児教育学、教育学、体育学、異文化研究、小学校教育などの教育系研究者、実践者、それに、情報科学、法学などの多様な専門家集団を研究分担者、連携研究者、研究協力者として、3年計画で進められた。

初年度から2年度にかけて、21世紀型の幼児像を選択した代表的な異なる能力領域で明らかにし、2年度から3年度にかけて、各領域ごとに、これらの能力を育成するシステムを設計試行評価し、さらに、能力育成を指導する指導者の教育システムを検討、整理、設計、試行実施する流れで研究開発を進めた。

途中、リーダー会議、全体会議を頻繁に実施しながら相互の研究の進行を参考にそれぞれの研究班やグループの研究を行った。

4. 研究成果

21世紀型の能力として取り上げた代表的なものとして、思考力および想像力をはぐくむことば、コミュニケーション能力の基礎となる自己認識力と他者認識力、物語理解、情報処理力、空間認知能力、感受性、自然理解、形の切り抜き、粘土遊びなどの技能、外国語理解、異文化理解、数の理解、身体表現力、善悪判断能力などであった。それぞれの能力、技能について、なぜ大切であるかの理由を明らかにしたうえで、上述の3段階にわたる研究成果を報告書にまとめた。加えて、大人の目線から、子どもを取り巻く能力技能をはぐくむ環境、教育機関、地域の働きを分析している。最近大きな関心を集めている、メディア環境、ICTを巡る環境、情報モラル、未来に生きる子どもへの期待についても取り上げ、研究開発の現状把握、新たな指導者育成

システムの提言、構築、試行実施し、成果を上げた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 32 件)

- ① 岸本肇 学校教育における子どもの「からだと心」の問題に対応した教育実践に関する一考察 東京未来大学研究紀要, 査読無, 第4号, 2011, pp.1-8.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/04/kishimoto.pdf>
- ② 末藤美津子 外国につながる子どもたちへの教育支援—多文化共生社会の構築をめざして 東京未来大学研究紀要, 査読無, 第4号, 2011, pp.9-16.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/04/suefuji.pdf>
- ③ カレイラ松崎順子・執行智子・下田康信・坂元昂 音の出る英語の絵本 Tag Reading System を取り入れた小学校外国語活動 コンピュータ&エデュケーション, 査読有, vol.29, 2010, pp.12-17
- ④ カレイラ松崎順子 保育士養成課程における英語教育の一考察—ESP 的アプローチを取り入れて— Annual Report of JACET-SIG on ESP, 査読有, vol.11, 2010, pp.22-30.
- ⑤ 鈴木光男 教育実践としてのパフォーマンスに関する一考察—兵庫教育大学学校教育学部附属小学校の総合単元「卒業式」と「ミュージカル」を対象にして—東京未来大学研究紀要, 査読無, 第3号, 2010, pp.19-28.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/03/03.pdf>
- ⑥ 末藤美津子 「言葉」に着目した「幼保小連携」に関する研究の意義—教育政策の動向から—東京未来大学研究紀要, 査読無, 第3号, 2010, pp.45-55.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/03/06.pdf>
- ⑦ 光野公司郎 (2010) 小学校第1学年の「国語科」と幼稚園5歳児の領域「言葉」との連携指導の在り方—同一教材「この音なかに」の指導計画作成をとおして—東京未来大学研究紀要, 査読無, 第3号, 2010, pp.67-76.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/03/08.pdf>
- ⑧ 竹内貞一・坪井寿子・藤後悦子・府川昭世・田中マユミ・佐々木圭子 (2010) 保育における「気になるこども」の現状と支援の課題—足立区内の保育園を対象として

—東京未来大学研究紀要, 査読無, 第3号, 2010, pp. 77-83.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/03/09.pdf>

- ⑨ 藤後悦子・坪井寿子・竹内貞一・府川昭世・田中マユミ・佐々木圭子 (2010) 保育園における「気になる保護者」の現状と支援の課題—足立区内の保育園を対象として— 東京未来大学紀要, 査読無, 第3号, 2010, pp. 85-95.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/03/10.pdf>
- ⑩ 坂元昂 世界の教育改革を先導する教育システム情報研究 教育システム情報学会誌, vol. 26(2), 2009, pp. 145-148.
- ⑪ 末藤美津子 道徳教育の新たな課題—多文化共生の学校づくりをめざして— 社会環境論究—人・社会・自然—, 査読有, 第2号, 2010, pp. 1-12.
- ⑫ 坪井寿子 女子大学生による保育・教育場面における「外向—内向」の素朴概念に関する問題 児童研究, 査読有, vol. 88, 2009, pp. 43-52.
- ⑬ 末藤美津子 日本における多文化共生教育の現状と課題アイヌ民族に注目して—社会環境論究—人・社会・自然—, 査読有, 第1号, 2009, pp. 19-32.
- ⑭ カレイラ松崎順子 「生きる力」をはぐくむ小学校外国語活動 東京未来大学紀要, 査読無, 第2号, 2009, pp. 51-60.
<http://www.tokymirai.ac.jp/kiyou/pdf/02/06.pdf>
- ⑮ 坂元昂 人類の知を有効活用する e-Learning 知能と情報(日本知能情報フレンジ学会誌), 査読有, vol. 20(6), 2008, pp. 891-903.
- ⑯ 宗和太郎・福崎淳子 保育者の専門性とは何か 幼児教育学研究(日本幼児教育学会誌) 査読有, vol. 15, 2008, pp. 65-67.

[学会発表] (計 72 件)

- ① J. M. Carreira & F. J. M. Carreira “The Possibility of an Electronic Book Reader for Children in Japan” The 9th Annual Hawaii International Conference on Arts and Humanities (2011年1月10日) Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Hawaii
- ② J. M. Carreira, T. Shigyo, Y. Simoda, & T. Sakamoto “EFL Classes Incorporating LeapFrog Tag Reading System in a Japanese Elementary School” The 9th Annual Hawaii International Conference on Education (2011年1月5日) Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Hawaii
- ③ 田中真奈美 “日本人大学生の短期海外留

学の教育的効果の分析” 日本国際教育学会 (2010年9月11日) 仙台白百合女子大学

- ④ 齋藤長行 “幼児のゲーム利用の影響に対する保護者の意識とペアレンタルコントロールに関する調査研究 第35回教育システム情報学会全国大会 (2010年8月26日~28日) 北海道大学
- ⑤ E. Togo, Y. Iso, & H. Tsuboi “The effects of reading the picture books and the video picture books on the children’s understanding of the stories” IAAP Division 14 Applied Cognitive Psychology (2010年7月11-16日) Melbourne Convention and Exhibition Centre in Melbourne, Australia.
- ⑥ 齋藤長行 “幼児のインターネットとゲームにおけるペアレンタルコントロールに関する調査研究” 第103回情報処理学会コンピュータと教育研究会 (2010年3月6日~7日) 筑波大学
- ⑦ 益井洋子・伴浩美 “A Study of Physical Exercise Using the Nintendo DS” KANSEI ENGINEERING AND EMOTION RESEARCH INTERNATIONAL CONFERENCE KEER2010 (2010年3月3日) Arts et Metiers Paris Tech, Paris
- ⑧ 坂元昂 “Present Situation of ICT in Japanese School Education” GENIE (Global Exchange Network of ICT in education) (2010年3月3日), Washington, D.C.
- ⑨ 坂元昂 ” 教育工学の現状と将来展望” 第3回日中教育工学研究交流フォーラム (2009年8月7-8日) 東北師範大学(中国長春市)
- ⑩ 坂元昂 “Present and Future of Lifelong Learning in Primary and Secondary education” The 9th IFIP World Conference on Computers in Education (WCCE 2009) (2009年7月29日) Bento Goncalves, RS, Brazil
- ⑪ 益井洋子 “Image of the Typical Mother Participating in Parent-Child Circles” 第1回アジア太平洋ヘルスプロモーション健康教育学会 (The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education) (2009年7月18-20日) 幕張メッセ国際会議場
- ⑫ T. Sakamoto “On Demand Lecture Circulation by FOLC and Quality Assurance by ACPA in WASEDA University Group” Distance Learning and the Internet Conference 2008 (2008年11月20日) Waseda University, Japan.
- ⑬ T. Sakamoto “Enhancement of Global Communication Abilities based upon The International Language Skills

Standards” JACET 47th Convention (2008年9月13日) Waseda University, Japan.

⑭ T. Sakamoto “The Way of providing e-learning contents repository in higher education in Japan” e-Learning Global Leaders Conference 2008 (2008年9月10日) Seoul, Korea.

⑮ I. Ohashi, & S. Niizeki Facts and Issues Concerning Fine Arts Appreciation Studies in Elementary and Middle Schools in Japan from Report on National Survey Results The32nd InSEA World Congress 2008 in Osaka, Japan (2008年8月8日) International House, Osaka

⑯ T. Sakamoto, A. Kurematsu, & A. Fujita “National and International Exchange of Educational Programs and Courses among different Educational Organizations through Networks” GUIDE International Workshop 2008 E-Learning and Multicultural Education : Digital Divide and Digital Opportunities. (2008年5月15日) Rome, Italy.

[図書] (計12件)

① 坂元昂 (監修) 磯友輝子・坪井寿子・藤後悦子・山村雅弘・大橋功・カレイラ松崎順子・出口保行他 (著) 学研教育出版 こどもがみ・え・る, 2010年, 168.

② 藤後悦子 ナカニシヤ出版 保育カウンセラーここからはじまる保育カウンセラーへの道, 2010, 197.

③ 大橋功 (監著) 鈴木光男他 (編著) 日本文教出版 美術教育概論改訂版, 2009, 231.

④ 近藤俊明 東京未来大学 子ども臨床心理学 2009, 229.

⑤ 出口保行 東京未来大学 犯罪の心理, 2009, 239.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

○取得状況 (計0件)

名称 :
発明者 :

権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

http://tokyomirai.ac.jp/research_report/index.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂元 昂 (TAKASHI SAKAMOTO)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号 : 00016338

(2) 研究分担者

大西 文行 (FUMIYUKI OONISHI)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号 : 10024241
(H20, 21→H22 : 連携研究者)

大橋 功 (ISAO OOHASHI)
同志社大学
・社会・芸術国際研究センター・研究員
研究者番号 : 70268126
(H20-H21)

小田桐 忍 (SHINOBU ODAGIRI)
東京未来大学・こども心理学部・准教授
研究者番号 : 20324022
(H20→H21, 22 : 連携研究者)

カレイラ松崎 順子
(JUNKO MATSUZAKI CARREIRA)
東京未来大学・子ども心理学部・講師
研究者番号 : 40454186
(H20→H21, 22 : 連携研究者)

岸本 肇 (HAJIME KISHIMOTO)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号 : 80030592
(H20, H21→H22 : 連携研究者)

光野 公司郎 (KOUSHIRO KONO)
東京未来大学・こども心理学部・准教授
研究者番号 : 00460303
(H20, H21→H22 : 連携研究者)

近藤 俊明 (TOSHIAKI KONDO)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号 : 60337459
(H20, H21→H22 : 連携研究者)

末藤 美津子 (MITSUKO SUEFUJI)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号 : 10460304
(H20→H21, 22 : 連携研究者)

出口 保行 (YASUYUKI DEGUCHI)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号 : 30460306

藤後 悦子 (ETSUKO TOGO)
東京未来大学・こども心理学部・講師
研究者番号：40460307

(H20→H21, 22：連携研究者)

馬場 伊美子 (IMIKO BABA)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号：30208706

伴 浩美 (HIROMI BAN)
東京未来大学・こども心理学部・准教授
研究者番号：80257443

(H20, 21→H22：連携研究者)

福崎 淳子 (JUNKO FUKUZAKI)
東京未来大学・こども心理学部・准教授
研究者番号：40173330

(H20→H21, 22：連携研究者)

益井 洋子 (YOKO MASUI)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号：40229365

(3)連携研究者

坂元 章 (AKIRA SAKAMOTO)
お茶の水女子大学・教授
研究者番号：00205759

堀田 博史 (HIROSHI HOTTA)
園田学園女子大学・教授
研究者番号：60300349

松田 稔樹 (TOSHIKI MATSUDA)
東京工業大学・社会理工学研究科・准教授
研究者番号：60173845

磯 友輝子 (YUKIKO ISO)
東京未来大学・こども心理学部・講師
研究者番号：00432435
(H21-H22)

岩崎 智史 (IWASAKI SATOSHI)
東京未来大学・こども心理学部・助教
研究者番号：70460300
(H20：研究協力者→H21, 22：連携研究者)

高田 隆 (TAKASHI TAKADA)
前東京未来大学・こども心理学部・准教授
研究者番号：60331328
(H20：研究協力者→H21：連携研究者)

高梨 珪子 (KEIKO TAKANASHI)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号：70348423
(H20：研究協力者→H21, 22：連携研究者)

坪井 寿子 (HISAKO TSUBOI)
東京未来大学・こども心理学部・講師
研究者番号：70279818
(H20：研究協力者→H21, 22：連携研究者)

鈴木 光男 (MITSUO SUZUKI)
東京未来大学・こども心理学部・准教授
研究者番号：00548092
(H22)

田中 真奈美 (MANAMI TANAKA)
東京未来大学・こども心理学部・講師
研究者番号：60454188

(H22)

竹内 貞一 (TEIICHI TAKEUCHI)
東京未来大学・こども心理学部・講師
研究者番号：80341600

(H22)

山村 雅宏 (MASAHIRO YAMAMURA)
東京未来大学・こども心理学部・教授
研究者番号：00230532

(H22)

齋藤 長行 (NAGAYUKI SAITO)
青山学院大学・総合研究所 eラーニング人
材育成研究センター・客員研究員
研究者番号：50454187

(H22)